

第2回創玄杯躰道競技大会要項

2025/05/15版

目次

1. 大会概要	1
2. 前日設営	1
3. 当日会場時程	2
4. 競技概要	2
5. 費用・申込に関する事項	3
6. その他	4
7. 競技内容(概要)	5
別紙1: 競技内容(詳細)	5
別1: 1. 新人運足八法競技	6
別2: 2. 男子段位個人法形 / 3. 女子段位個人法形 / 4. 男子級位個人法形 / 5. 女子級位個人法形	8
別3: 6. 男子段位個人実戦 / 7. 女子段位個人実戦	9
別4: 8. 男子級位個人実戦 / 9. 女子級位個人実戦	11
別4: 10. 段位団体実戦競技	13
別紙2: 実戦競技指導採点表	14

要項本編

1. 大会概要

- 主催: 創玄会
- 日時: 2025年6月22日(日)08:30~21:10(完全撤収)
- 会場: 練馬区立総合体育館
 - 住所: 〒177-0032 東京都練馬区谷原1丁目7番5号
 - 電話: 03-3995-2805
 - アクセス:
 - HPご参照 (<https://www.city.nerima.tokyo.jp/shisetsu/koen/taiku/sogo.html>)
 - お車で来られる場合、体育館裏にある【第二駐車場】をご利用ください(有料)
 - 利用時間: 午前8時30分から午後9時30分
 - 利用料金: 最初の1時間200円。以後30分ごとに100円

2. 前日設営

- 設営にご協力いただきたい団体: 出場される団体の皆様
- 設営・練習可能時間: 2025年6月21日(土)18:30~21:10
 - 集合時間: 18:15(開場15分前)
 - 集合場所: 競技場
 - 服装: 道着着用
 - 設営後は最大21:10頃まで翌日の大会に向けた確認や事前指導等に使うことを想定しております。
21:10には完全撤収を予定しておりますので、ご留意下さい。合同での事前指導がない場合は、設営後、各団体の判断で撤収いただいて問題ありません。

3. 当日会場時程

- 集合時間
 - 役員・審判 :8:00~8:15入館
 - 選手 :8:15~8:30入館
- 注: 体育館には他のお客様も来場するため、大勢での入り口付近での待機はご遠慮ください。
- 選手棄権連絡 :8:50まで(本部記録席/司会席までお知らせください)
- 開会式 :9:00~
- 競技開始時間 :9:15~
注) トーナメントなどの詳細な時程は、各団体の出場人数を把握後、追って展開いたします。

4. 競技概要

- 競技内容: 各競技の詳細についてはP.5以降の「(別紙1)競技内容」をご参照ください。
- 出場資格
 - 創玄会、三田道場、東京大学運動会剣道部、慶應義塾大学剣道部、山梨大学剣道部に所属する剣士
 - 競技ごとの出場資格はP.5以降の「(別紙1)競技内容」をご参照ください。
- 出場制限
 - 団体の出場人数: 制限なし
 - 個人の出場種目数: 制限なし
 - 最大3種目への参加が可能です。
 - ただし、出場選手数や時程等に合わせて調整をお願いさせていただく可能性があります。
- 競技判定
 - 剣道本院の定める「審判規定」を基本にしつつ、本大会で新たに設定する基準に基づき、各競技の判定を行います。本大会では競技の勝敗だけではなく、今後の剣道にて目指すべき事項を重視する観点で基準を実行委員会にて検討し、追加しております。そのため、通常の大会とは異なる基準もあるため、大会前の稽古段階からP.5以降の「(別紙1)競技内容」を熟読し、事前に稽古の上ご参加ください。
 - 各競技の判定方法につきましては「(別紙1)競技内容」に記載の「判定」の欄をご参照ください。

5. 費用・申込に関する事項

- 大会出場費
 - 一般:1名3,500円
 - 新人:1名2,500円
 - ※保険料(300円/人)込み
 - ※出場費が余った場合は、翌年度の創玄杯運営費として充当いたします。
- 保険
 - 本大会では、6/22当日の参加者(選手・役員・審判等)に対し、傷害保険を適用します。
 - 保険の補償範囲は以下を予定しています。
補償範囲が不十分と思われる方は、適宜、団体や個人で必要な保険にご加入ください。
 - 〈補償内容〉
 - ・死亡・後遺障害保険金額 586.4万円
 - ・入院保険金日額 3,000円/日
 - ・通院保険金日額 2,000円/日
 - ご質問やご不明点がございましたら、実行委員宛にお問い合わせください。
- 申し込み
 - 締め切り: 2025年5月28日(水)
 - 提出書類:選手申込書(Excel)
 - 提出方法:創玄杯実行委員 2025sogenhai_unnei@googlegroups.com宛にメールでご提出ください。
 - 出場変更の締め切り:大会1週間前の6月15日(日)まで受け付ける予定です。
 - 締め切り日以降の出場費の返金は原則不可とさせていただきます。
 - 留意事項
 - 申込書は必要事項を明記し、提出前に団体責任者が必ずご確認・ご承認ください。
 - 団体責任者ではなく、団体担当者から申込書類を送付する場合は、必ず団体責任者をCCに含めてご連絡ください。
 - 提出後、申込内容に変更がある場合は速やかにご連絡/ご相談ください
- 出場費支払い方法
 - 2025年6月9日(月)までに下記口座に納金し、実行委員会宛に①団体名、②出場選手数、③納金額をメールでご連絡ください。
 - 支払い期限を変更する可能性もありますが、その際はご連絡いたします。
 - メール連絡先:創玄杯実行委員 2025sogenhai_unnei@googlegroups.com
 - 振込先:創玄会口座
 - 金融機関:ゆうちょ銀行
 - 店番:018
 - 預金種別:普通預金
 - 口座番号:1795887
 - 名前:躰道 創玄会(タイドウ ソウゲンカイ)

6. その他

- 事前確認のお願い
 - 本大会は、通常の大会ではなく、指導的要素を重視した大会になります。そのため出場選手・審判ともに、競技内容や判定の観点について事前に熟読の上、ご参加ください。
- 持ち物
 - 出場選手は大会当日、「健康保険証」を必ずご持参ください。
- 服装
(選手)
 - 出場選手は、日本剣道協会公認の剣道着を着用してください。
 - 実戦競技出場選手は、必ず指定の胴プロテクターを道着の下に着用してください。級位実戦出場選手は面ピット着用も必須となります。段位実戦出場選手も着用可能です。
- (選手以外)
 - 団体実戦の競技監督も剣道着着用でご参加ください。
 - 閉会式後に指導時間を設けることを想定しているため、審判も剣道着着用にて実施します。
- 開会式
 - 出場選手は事前に「剣道五条訓」を練習し、唱和できるようにしておいてください。当日は、選手代表のもと、全員で唱和を行います。
- 食事
 - 食事は、観客席か会議室のみで行って下さい。ロビー・コートでの食事は一切禁止となります。
- ゴミ
 - お持ちになったゴミはご自身・所属団体で必ず持ち帰りください。また、退館時、観客席等にゴミが残っていないことを確認の上、ご移動ください。
- 観客席
 - 観客席の指定は行いません。各団体で譲り合いながら、ご利用ください。
- 大会中の所作
 - 他のお客様の妨げになるような事がないように心がけてお過ごしください。
 - 問題や緊急事態が発生した場合は、速やかに実行委員会にお知らせください。
- 貴重品
 - 誰でも大会会場に観客として入場できる状況となっております。各団体で貴重品の管理を行ってください。実行委員会では貴重品の保管場所などのご準備はございませんのでご容赦ください。
- 問い合わせ先
 - 創玄杯実行委員会(メール)
 - 2025sogenhai_unnei@googlegroups.com
 - 創玄杯実行委員体制
 - 大会会長: 安部 幸史郎
 - 実行委員長: 良本 真基
 - 実行委員メンバー
 - 創玄会
 - 村瀬 和都、小松 慎太郎、谷井 嶺太、齋藤 健太、佐藤 幹、高松 大地、吉本 一貴、宮下 知也
 - 東京大学運動会剣道部
 - 山際 真穂、名倉 崇広、小林樹里、花澤 菜奈
 - 慶應義塾大学剣道部
 - 宇野 友季子、藤田 政徳、塚原 泰、御幸 怜史、鷺津 匠哉

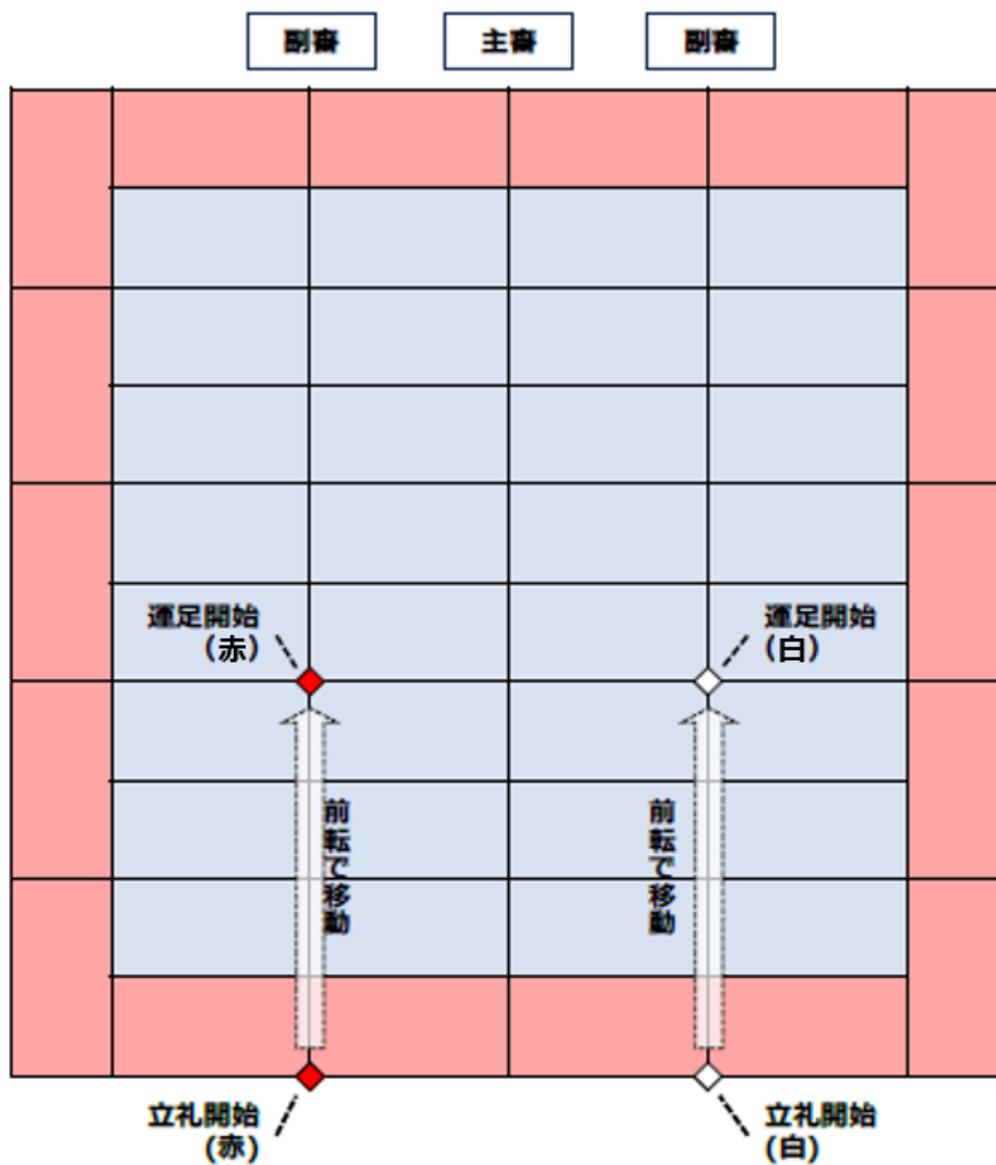
7. 競技内容(概要)

No.	競技種目名	出場資格	競技内容
1	新人運足八法競技	初階及び 一般無級・ 男女混合	以下のURLに掲載された筋で、運足・基本技を行う。 構えや運足、動攻五戒の体得を重視し判定を行う。 https://youtu.be/XyqWEPUmW4A?feature=shared
2	男子段位個人法形競技	初段以上 ・男子	1回戦から決勝戦まで変体の法形 法形の十大要素、基礎動作、動功五戒による基本技法に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
3	女子段位個人法形競技	初段以上 ・女子	1回戦から決勝戦まで変陰の法形 法形の十大要素および基礎動作及び動功五戒による基本技法に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
4	男子級位個人法形競技	1~4級 ・男子	1回戦から決勝戦まで変体の法形 法形の十大要素および基礎動作及び動功五戒による基本技法に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
5	女子級位個人法形競技	1~4級 ・女子	1回戦から決勝戦まで変陰の法形 法形の十大要素および基礎動作及び動功五戒による基本技法に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
6	男子段位個人実戦競技	初段以上 ・男子	競技時間1分半で実戦競技を行う。 基本的かつ発展的な実技の体得を重視し判定を行うこととし、 競技時間の中で指導時間を設け、指導の程度を判定に反映させる。 また、操体の不十分な実技や制法・防手の未成熟な実技等は 判定の引き下げも考慮する。
7	女子段位個人実戦競技	初段以上 ・女子	
8	男子級位個人実戦競技	1~4級 ・男子	
9	女子級位個人実戦競技	1~4級 ・女子	
10	段位団体実戦競技	初段以上・ 男女混合	競技時間1分半で実戦競技を行う。 男子3名、女子2名を1チームとする。 各団体から最大で2チームまで参加可能とする。 ※通常の競技ルールと変更はなし。

別紙1: 競技内容(詳細)

別1:1. 新人運足八法競技

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 新人が十分な習熟期間を経ず大会出場に臨むことを鑑み、将来的な実技向上のために大会開催月時点で重視すべき実技の定着度・習熟度を競う。 <重視すべき実技> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 基本的な立ち方 ✓ 動攻五戒を意識した旋技/運技/変技 ✓ 躰道・武道的要素を意識した運身 ✓ 礼法(立礼、座礼)や基動点・基動線
<p>競技の概要</p>	<p>以下の筋に則り、運足・基本技を行う。</p> <p><運足八法競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 開始位置に移動し、結び立ちで起立。 ▪ 結び立ちのまま、審判の笛①で立礼後、閉足立ちに移行。 <p>※立礼から判定対象となります</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 開始位置にて、閉足立ちから左中段構え。 ▪ 開始位置から、運足八法開始位置(コート端から2畳)まで前転で移動し、前転から滑らかに左下段構えに移行。 <p>※基動点から外れた箇所では前転を終了し、下段構えが基動点から外れてしまった場合、運足開始前に必ず基動点に戻ること。開始時点で基動点にいない場合は減点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 審判の笛②で、運足八法(左下段側)を行う。 <p>ただし、運足八法中には以下の順番で旋・運・変の実技を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 送足 2. 引足 3. 加足 4. 旋体直状突き・原態(退足) 5. 減足 6. 交足 7. 点足 8. 運体蹴り突き(追足は行わない) 9. 退足 10. 変体海老蹴り 11. (原態後)右中段構え 12. (右中段構え後)右下段構え <p>※相手選手よりも先に右下段構えをとった場合は、審判の笛③まで下段構えにて待機</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 審判の笛③で、運足八法(右下段側)を行う。運足八法の順番は、左下段側と同様。 <ol style="list-style-type: none"> 1~12. 同上 13. 左下段構え後、正座 14. (正座後)座礼 <p><実技参考動画></p> <p>正面視点: https://youtu.be/XyqWEPUMW4A?feature=shared</p> <p>横視点: https://youtu.be/02sEkkG5RGw?feature=shared</p>
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 3名の審判が、以下の観点で実技の評価を行い、審判員の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。 ✓ 基本的な立ち方(常の身、立ち方八態、構え)の体得 ✓ 旋技/運技/変技の動攻五戒(単技・連技)の体得 ✓ 躰道・武道的要素を意識した運身の体得 ✓ 基本的な礼法(立礼、座礼)や意識の体得 ✓ 基動点・基動線の意識定着
<p>出場資格</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 一般無級(2025年度入部した新人)及び初階 ▪ 男女混合



別2:2. 男子段位個人法形 / 3. 女子段位個人法形 / 4. 男子級位個人法形 / 5. 女子級位個人法形

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 身体操作だけではなく、躰道の法形ならではの他律的要素(「懸」「待」「表裏」)を意識した「相手が見える表現・対の先が見える表現」の体得と、体得に向けた修練方法や発想の向上を意図し、他律的要素の表現度をより重視した判定を行う。 				
競技の概要	<ul style="list-style-type: none"> 事前に配布する変体/変陰の参考動画の敵役の動きに対応することを想定し、指定法形を実施する。 				
指定法形	<ul style="list-style-type: none"> 男子段位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変体の法形。 女子段位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変陰の法形。 男子級位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変体の法形。 女子級位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変陰の法形。 				
判定	<ul style="list-style-type: none"> 3名の審判が実技の評価を行い、審判の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。 審判は、十大要素、基礎動作及び動功五戒による基本技法の体得度を基本とし、他律的要素の表現度を加味した観点で評価を行う。 絶対的評価による加減点法で計算し、赤白選手の相対的評価によって勝敗の判定を行う。 絶対的評価における加減点法で計算においては、躰道ルールブックに記載の評価基準による加減点に加え、法形全体を通しての他律的要素の表現度によってさらに0~1.0点の加点をし、計算する。 ※他律的要素の表現が著しく優れた法形が見受けられた場合は1.0点以上の加点も認める 他律的要素の表現度の評価は十大要素の「攻防と陰陽」を前提として、特に以下の観点を重視して行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・緩急と強弱 ・気合と威力 ・目技 				
出場資格	<p>男子段位個人法形: 初段以上(黒帯)、男子 女子段位個人法形: 初段以上(黒帯)、女子 男子級位個人法形: 色帯(1~4級)、男子 女子級位個人法形: 色帯(1~4級)、女子</p>				
参考動画	<p>変体の法形: https://youtu.be/Sv_LPzekRHk?feature=shared 変陰の法形: https://youtu.be/zAeDqYal6F4?feature=shared ※動画はこちらのQRコードからも閲覧可能です。</p> <table border="1" data-bbox="320 1122 1075 1451"> <thead> <tr> <th data-bbox="320 1122 699 1182">変体の法形</th> <th data-bbox="699 1122 1075 1182">変陰の法形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="320 1182 699 1451">  </td> <td data-bbox="699 1182 1075 1451">  </td> </tr> </tbody> </table>	変体の法形	変陰の法形		
変体の法形	変陰の法形				
					

別3:6. 男子段位個人実戦/7. 女子段位個人実戦

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 従来の実戦競技においては、ポイント取得を主眼に置いた実技展開となりやすいことを鑑み、「躰道らしい実技」、特に連動連体を志向する実戦を体得することを狙う。 ▪ そのため、日本躰道協会指導局による2025年度の重点テーマ*を評価に組み込み、判定を行う。 <p>また、選手/審判が競技中も重点テーマを意識して実技を行うことができるように競技ルールを変更し、試行する。</p>
<p>競技の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合時間は1分半。 ▪ ※実戦競技の時間は、主審の競技開始の合図により計るものとし、主審あるいは副審がホイッスル等で試合を制止した時、計時係は時間を止め主審の合図で再開する。 ▪ 試合開始後、45秒が経過したタイミングで試合を中断し、主審より指導を行う。 <p>指導後、競技を再開し、主審・副審等による判定を行う。</p> <p><競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 主審の合図により、競技を開始。 ▪ 競技開始45秒後、主審・副審・特別審で指導点を確認したのち、主審による指導を行う。 ▪ 指導後、競技を再開し、45秒後の競技時間後、審判の合図により競技を終了する。
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合の進行と判定を担う主審・副審に加え、連動技判定と指導点確認を担う特別審の3名体制で判定を行う。 ▪ 判定時、特別審は対象の実技が連動連体の伴ったものであったか判定を行う。 ▪ 判定には赤旗を用いることとし、連動連体であった場合は旗を上げることとする。 ▪ 特別審により連動技の判定がなされた場合、技の判定は通常の判定からワンランク上げることとする。 <p>例: 赤選手の旋体蹴りが極め技不十分で通常は有効判定であったが、特別審が連動技判定の赤旗を上げた場合。</p> <p>主審発声例「ただいまの赤の旋体蹴り、極め技不十分ですが連動技のため技ありとします。赤旋体蹴り技あり。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 連動技判定の基準は以下を目安とする。 <ul style="list-style-type: none"> ●極め技に至るまでの一連の動きの中に、2個以上(種類問わず)の操体が施されていること。 ●2個以上の操体の効果(攻態・防態)が極め技に表れていること。 <p>連動技の判定は特別審が行うが、主審・副審がその判定に疑義をもった場合や特別審が判断に迷った場合は、試合を止め3者で話し合うこととする。ただし、最終的な判断は特別審が行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 主審・副審は、運足・操体・制法・極技・原態の流れに加え、日本躰道協会指導局による2025年度実戦競技重点テーマの観点を鑑み、判定を行う。 <p>特に、操体不十分な(片手卍、操体と制法が分離した)技についてはポイントを取らない。</p> <p><u>*参考:日本躰道協会2025年度実戦競技重点テーマ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 構え・運足・操体と相手に対して正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体、足向、膝向、体の向き、腰動、重心、体技不一致、三つの嫌い(飛び足、摺り足、浮き足)、内弦、応変実動、動功五戒 ■ 原態復帰までしっかり行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 気抜け、目技、間合い、制御 ■ 突き技の防手を徹底すること <ul style="list-style-type: none"> ✓ 旋・運・捻・転の際の顔面カバー等 ■ 攻撃の目標を正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 運足～原態、蹴りの抱え、膝向 ■ 正しい応変風靡、防体・操体不十分な技の禁止。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 片手卍、運突き等

<判定の流れ>			
試合時間	競技の流れ	今大会での追加基準	判定
競技開始 ～45秒	主審の笛で競技開始し、 審判の合図により競技停止	主審・副審 判定時、特別審が連動技の判定を行った場合、判定をワンランク上げる。 2025年度実戦競技重点テーマに基づき、指導が必要な点を注視。 特別審 判定時、対象の実技が連動連体の伴ったものであったか判定を行う。 2025年度実戦競技重点テーマに基づき、指導が必要な点を注視。	45秒の間に「一本」または「失格」の判定が行われた場合、勝敗が決する。
指導時間	主審・副審・特別審により指導点を確認した後、主審から指導を実施 所定の判定ルールに則り、指導内容を判定に反映	主審 両選手を立たせた後、副審・特別審を集め、3者で指導点を確認する。 指導の程度に応じて、指導された選手に「注意」等の追加判定を行う。指導内容が複数あり、それらを統合して一つの「注意」を取る場合、主審は主要な注意内容を挙げて注意を取る。 指導時間による判定も、通常判定と同様に、「注意」2本で「警告」とし、「注意」3本で「失格」とする。	
指導後 ～45秒	主審の笛で競技再開し、 審判の合図により競技停止	主審・副審 判定時、特別審が連動技の判定を行った場合、判定をワンランク上げる。 特別審 判定時、対象の実技が連動連体の伴ったものであったか判定を行う。	技有vs有効や、注意ありvsなしなど、判定により勝敗がつく場合は、判定結果により勝敗を決する 双方有効など、判定上、引き分けになった場合は、主審・副審・特別審3名の合議により、内容の優劣によって勝敗が決する。
出場資格	男子段位個人実戦:初段以上(黒帯)、男子 女子段位個人実戦:初段以上(黒帯)、女子		

別4:8. 男子級位個人実戦/9. 女子級位個人実戦

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 従来の実戦競技においては、ポイント取得を主眼に置いた実技展開となりやすいことを鑑み、「躰道らしい実技」を志向する実戦を体得することを狙う。 ▪ そのため、日本躰道協会指導局による2025年度の重点テーマ*を評価に組み込み、判定を行う。 <p>また、選手/審判が競技中も重点テーマを意識して実技を行うことができるように競技ルールを変更し、試行する。</p>
<p>競技の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合時間は1分半。 ▪ ※実戦競技の時間は、主審の競技開始の合図により計るものとし、主審あるいは副審がホイッスル等で試合を制止した時、計時係は時間を止め主審の合図で再開する。 ▪ 試合開始後、45秒が経過したタイミングで試合を中断し、指導審判員より、指導を行う。指導後、競技を再開し、主審・副審等による判定を行う。 <p><競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 主審の合図により、競技を開始。 ▪ 競技開始45秒後、指導審判員による指導を行う。 ▪ 指導後、競技を再開し、45秒後の競技時間後、審判の合図により競技を終了する。
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合の進行と判定を担う主審・副審に加え、指導と指導判定を担う指導審判員の3名体制で判定を行う。 ▪ 主審・副審は、運足・操体・制法・極技・原態の流れに加え、日本躰道協会指導局による2025年度実戦競技重点テーマの観点を鑑み、判定を行う。 ▪ 特に、操体不十分な(片手卍、操体と制法が分離した)技についてはポイントを取らない。 ▪ *参考:日本躰道協会2025年度実戦競技重点テーマ <ul style="list-style-type: none"> ■ 構え・運足・操体と相手に対して正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 整体、足向、膝向、体の向き、腰動、重心、体技不一致、三つの嫌い(飛び足、摺り足、浮き足)、内弦、応変実動、動功五戒 ■ 原態復帰までしっかり行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 気抜け、目技、間合い、制御 ■ 突き技の防手を徹底すること <ul style="list-style-type: none"> ✓ 旋・運・捻・転の際の顔面カバー等 ■ 攻撃の目標を正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 運足～原態、蹴りの抱え、膝向 ■ 正しい応変風靡、防体・操体不十分な技の禁止。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 片手卍、運突き等 ▪ 指導審判員は、日本躰道協会指導局による2025年度実戦競技重点テーマに基づき、赤白双方の指導ポイントの判定を行う。 ▪ 赤白の勝敗は、主審・副審による判定に加え、指導審判員の指導ポイントも加味し、判断を行う。

<判定の流れ>			
試合時間	競技の流れ	今大会での追加基準	判定
競技開始 ～45秒	主審の笛で競技開始し、 審判の合図により競技停止	主審・副審 操体不十分/制法・防手不十分/ 極技不十分/原態不十分の場合は、 技の評価をワンランク落とすこととする。 指導審判員 別紙2の実戦採点表に基づき、構え/ 運足/操体/制法・防手にて指導を要 すると判断された内容に応じて、指 導ポイントを付与する。	45秒の間に「一本」または 「失格」の判定が行われた場 合、勝敗が決する。
指導時間	指導審判員により競技者 に 指導を実施 所定の判定ルールに則り、 指導内容を判定に反映	指導審判員 指導ポイントの付与数に応じて、指 導された選手の相手選手に「有効」 等の追加判定を行う。 指導ポイントによる判定も、通常判 定と同様に、「有効」2本で「技有」と し、「技有」2本で「一本」とする。 指導ポイント×5で 相手選手に「有効」を追加	指導審判員の追加判定によ り、既存の判定が「一本」の判 定に繰り上がった場合、 勝敗が決する。
指導後 ～45秒	主審の笛で競技再開し、 審判の合図により競技停 止	主審・副審 操体不十分/制法・防手不十分/極技 不十分/原態不十分の場合は、技の 評価をワンランク落とすこととする。 指導審判員 別紙2の実戦採点表に基づき、構え/ 運足/操体/制法・防手にて指導を 要すると判断された内容に応じて、 継続して、指導ポイントを付与する。	技有vs有効や、注意ありvsなし など、判定により勝敗がつく 場合は、判定結果により 勝敗を決する 双方有効など、判定上、引き分 けになった場合は、指導審判 員が付けている指導ポイントの 数が少ない方を勝者とする。 指導審判員の指導ポイントの 数も同数だった場合は、主審・ 副審・指導審判員3名の合議 により、内容の優劣によって 勝敗が決する。
出場資格	男子級位個人実戦:色帯(1~4級)、男子 女子級位個人実戦:色帯(1~4級)、女子		

別4:10. 段位団体実戦競技

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none">▪ 団体実戦の経験を積む。▪ 団体内および団体間での交流を促進する。
競技の概要	<ul style="list-style-type: none">▪ 試合時間は1分半とする。▪ 競技、審判、判定は他大会の団体実戦競技と同様に行う。▪ 男子3名、女子2名を1チームとする。▪ 各団体からの参加チーム数は無制限とする。
審判ルール	<ul style="list-style-type: none">▪ 判定は通常通り(追加ルールなし)
判定基準	<ul style="list-style-type: none">▪ 判定は通常通り(追加ルールなし)
出場資格	<ul style="list-style-type: none">▪ 初段以上(黒帯)▪ 男女混合

実戦競技指導観点採点表

コート: _____ 指導審判員: _____

	赤		白	
	選手名: _____		選手名: _____	
項目	指導観点	指導回数	指導観点	指導回数
構え	全体の保持		全体の保持	
	前傾		前傾	
	後傾		後傾	
	膝角		膝角	
	足向		足向	
	本手		本手	
	添手		添手	
	腰点		腰点	
運足	手動		手動	
	足動		足動	
	体技一致		体技一致	
	腰動		腰動	
	重心		重心	
	調子		調子	
	間合い		間合い	
	体向 基線		体向 基線	
操体	操体不十分		操体不十分	
制法・防手	抱え・引き足		抱え・引き足	
	防手		防手	
所作	所作		所作	
指導数合計				

項目	指導観点	説明
構え	全体の保持	<p>「全体の保持」の中でチェックすべき要点は次の5点。</p> <p>頭角 構えや施技時等における頭部の角度のこと。 頭の角度を、体軸・基動線・基動軸との関連の中で観る。顎の引きすぎや上げすぎを中心に、斜傾等と着眼との関連及び、「頭・手・体・腰・足」の関連に注意し正面や側面から観る。</p> <p>胸角 構えや施技時等における胸部の角度のこと。 胸の角度を、体軸・基動線・基動軸との関連の中で観ます。胸の張りすぎや引きすぎを中心に、「頭・手・体・腰・足」の関連にも注意して正面や側面から観る。</p> <p>上体 構えや施技時等における上半身の安定度のことです。 上体の安定度を、体軸・基動線・基動軸との関連の中で観る。 上体のふらつきを重心の高さや「頭・手・体・腰・足」の関連に注意して正面や側面から観る。</p> <p>下体 構えや施技時等における下半身の安定度のこと。 下体の安定度を、体軸・基動線・基動軸との関連の中で観る。 下体のふらつきを重心の高さや「頭・手・体・腰・足」の関連に注意して正面や側面から観る。</p> <p>全体 構えや施技時等における全体の安定度のこと。 全体の安定度を、体軸・基動線・基動軸との関連の中で観る。 全体のふらつきを重心の高さや「頭・手・体・腰・足」の関連に注意して正面や側面から観る。</p>
	前傾	各構え等における上体の前傾度のこと。 各構え時やえ字突き等の上体の前傾度を左右側面から観て、体軸が基動軸を基準に前傾になっていないかを観る。
	後傾	各構え等における上体の後傾度のこと。 各構え時の後傾度を左右側面から観て、体軸が基動軸を基準に後傾になっていないかを観る。
	膝角	各構え等における前足・後足の膝の角度のこと。 各構え時の膝内角度を腰点との関係から、下段・上段の場合は90度で、中段の場合は両膝内角とも約120度で前膝は側面・後ろ膝は前後からも観る。
	足向	各構えにおける前足・後足のつま先方向のこと。 各構え時の両足爪先方向は、下段の場合は両足爪先縦基動線方向、中段の場合は前足爪先縦基動線で後足爪先横基動線方向、上段構えの場合は前足爪先横基動線で後足爪先縦基動線方向なるようにする。
	本手	各構えにおける構え手のことでそれを本手という。その軌道、所定位置や角度、方向を観る。 (1)下段構えの本手の差し込み位置は反対側の肩峰と首の付け根の中間部の位置で、掌を回外させ手刀部をつけ指先から肘までが一直線になる。肘が上がりすぎたり手首が曲がったり差し込んだ本手が首についたりしないように注意する。添え手との関連に注意し、添え手を引き手所定位置に引きながら本手下段構えの本手所定位置へ移動させて構える。本手所定位置までの動きの軌跡と、構え終わる瞬間に掌を回内させているかなどを観る。 (2)中段構えの本手の差し込み位置は、下段構えと同様。添え手との関連に注意し、添え手を添え手所定位置に引きながら中段構えの本手所定位置へ移動させて構える。本手所定位置までの動きの軌跡と、構え終わる瞬間に掌を回内させて掌を立てているかなどを観る。 (3)上段構えの本手位置は、下・中段構えの本手を添え手として差し出しながら添え手としてあった手で顔面部を払いながら下段位置へ、本手を後方所定位置(上腕水平、前腕垂直位置)へ移動させます。掌は正面、縦軌道線方向へ向けているかなどを観る。

項目	指導観点	説明
	添手	各構えにおける添え手の動きと所定位置や角度、方向を観る。 (1)下段構えの添え手の差し出し位置は、手を伸ばしながら掌を回外させ上方へ向け正中線上でほぼ水平位置へ差し出す。 肘の伸びすぎ、指先の方向などにも注意して観る。 (2)中段構えの添え手の差し出し位置は下段構えと同じ。本手を所定位置に移動させながら添え手は少し引いて尺骨の骨頭が第1012肋骨の下(雁下の前あたり)に付けるように引く。指先は正中線方向でほぼ水平になる。手首の曲がり、脇の開き、指先の方向などにも注意して観る。
	腰点	構え等における腰の位置のこと。腰の向きも含む。 前後左右側面から観て腰の位置が正しいかを、体軸と基動軸を基準に各構え時の腰の位置に注意して観る。 (1)下段構えは、え字立ち時の前膝内角度が直角にならずに鋭角になることが多いので注意して観る。 (2)中段構えの場合は、「七減三加」に注意し、両膝内角度が約120度で前後左右側面からみて体軸とずれていないかなどを観る。
運足	手動	運足時における手の操法のこと。 運足時における構え手の操法が無駄や遊びが無く基準に従った所定位置や方向、角度をとっているかを観る。 また、添手の抱え不足、左右上下の無駄な軌跡や目標不足、立ち方と呼吸とのタイミング等も観る。
	足動	運足時における足の操法のこと。 運足時に「運足三つの嫌い」つまり飛び足・浮き足・摺り足がないようにする。また、動く範囲を大きく面を広く活用しているか、軸足への引付けが甘くないか(股関節)、体軸の移動が小さくないかも加味して観る。踵から踏むのも注意して観る。
	体技一致	運足時の手足と体の状態や躰技における体の状態と極め技の状態を一致させること。 運足時には体の動きと構え手・足の動きの一致を、各技のなかでは手足による極めと体の状態が一致しているかを観る。
	腰動	運足時や各技における腰の安定度のこと。 運足時に不安定な腰の動きや、足の動きと一体でない腰の動きにならないように体軸と基動軸が一致しているかを観る。
	重心	体の重心を下げ安定した動きができていないこと。 重心を下げ安定した構え/運足から技を出しているかを呼吸と強弱との関連の中で観る。 全体の流れの中で構えや移動、施技時等の腰の高さ、ふらつきに注意して正面や側面から観る。
	調子	構えや技の前後における肘や体で調子をとること。 添え手と構え手操法、技時の肘や手首の無駄な遊びや脇空きなどに注意して観る。
	間合い	相対時における適正な距離のとり方のこと。 相手との適正な距離のとり方を全体の流れの中で観る。
	体向	運足中の中段構え以外の時間も含めた構えの向きのこと。運足中に頭手体腰足が相手に正しく向いているかを観る。
	基線	運足移動時や技(操体)時における守るべき基動線のこと。 運足移動時に基動点を中心に基動線(前後・左右・45度方向など)に沿って動いているかを観る。
操体	操体不十分	技時に、十分に防御を意識した操体を行ったうえで制法・極技に入っているかを観る。 操体のエネルギーが感じられない突きや蹴りは判定対象とはせず、改善が見られない場合は注意の対象とする。
制法・防手	抱え・引き足	蹴りの際の抱えや引き足を意識できているかを観る。
	防手	突きの前の顔面カバーや防ぎ手のこと。 旋体直状突きや運体飛燕突きの際に、防手を意識できているかを観る。
所作	所作	競技の開始後の礼から終了の礼まで、構えを維持し続けること。 技の判定時や指導時において、構え手を維持しているかどうかを観る。